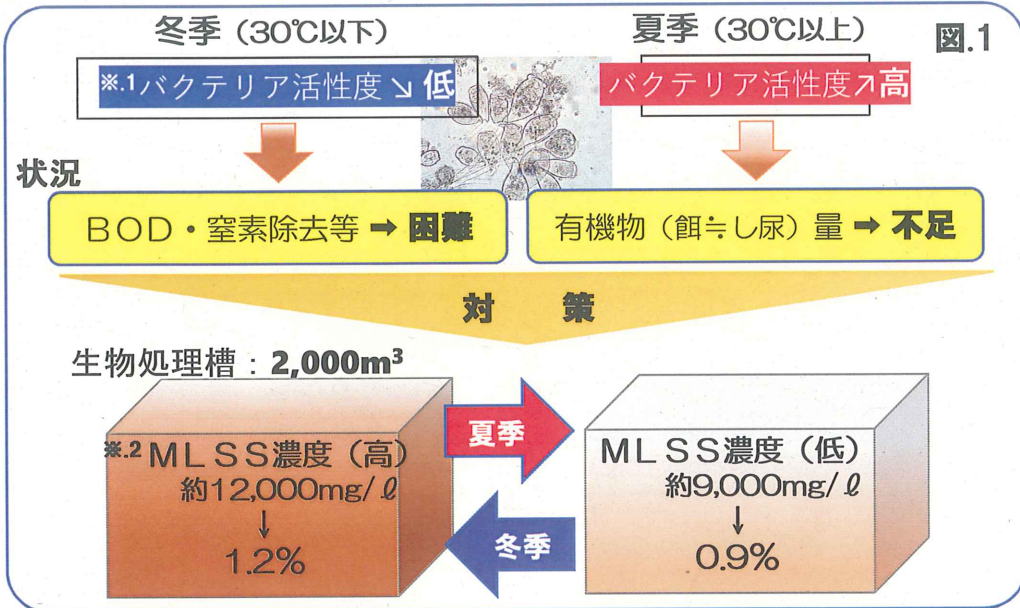


# 水温変動（季節による）に伴う基本的な曝気槽等MLSS調整例

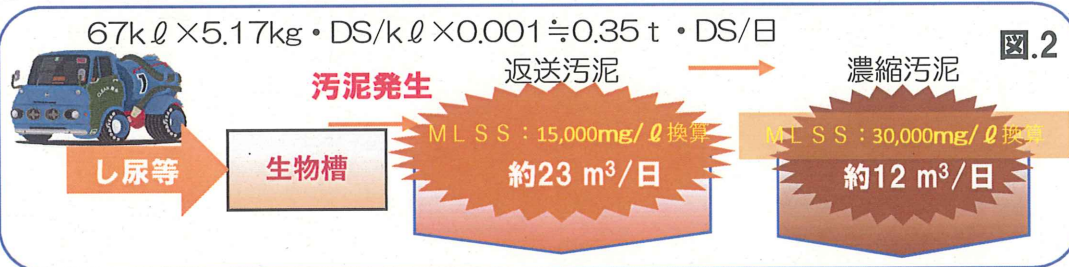
※.1 バクテリア（微生物）：有機物（し尿等）を餌として生息している生物。  
 （活性汚泥法では、細菌・原生動物・後生動物などを意図的に培養し、汚水中の有機物を吸着・酸化・還元等を効率よく促し、汚水を人工的に浄化させる。

資料.2-2

## ①季節に対応したMLSS調整



## ②1日の処理で発生（汚泥発生係数5.17kg・DS/ kℓ ）する汚泥量（m<sup>3</sup>/日）



## ③MLSS 12,000mg/ℓ（冬季）からMLSS 9,000mg/ℓ（夏季）に調整する場合

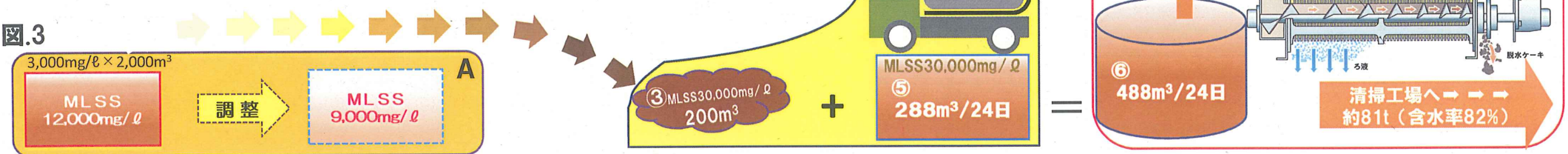
$$(12,000\text{mg}/\ell - 9,000\text{mg}/\ell) \times 2,000\text{m}^3 \div 15,000\text{mg}/\ell \div 400\text{m}^3$$

（返送汚泥MLSS）

$$400\text{m}^3 \text{（返送汚泥）} \times 15,000\text{mg}/\ell \div 30,000\text{mg}/\ell \div 200\text{m}^3 \text{（濃縮汚泥）}$$

（濃縮汚泥MLSS）

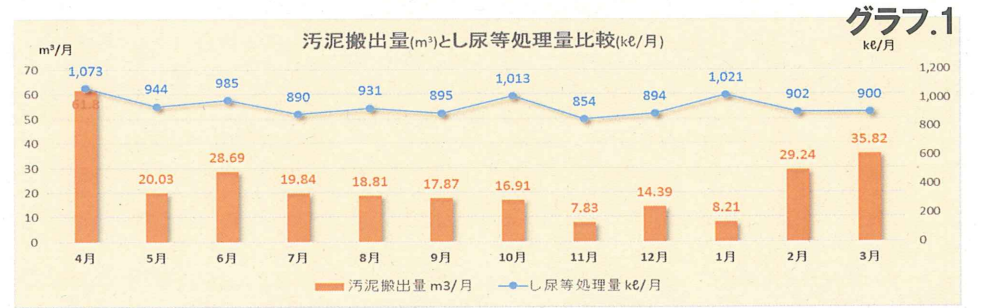
## 図.3



④ MLSS調整分汚泥処理日数：200m<sup>3</sup>（濃縮汚泥）÷ 8.5m<sup>3</sup>/日（汚泥脱水処理量）≒ 24日

⑤ 24日間のし尿等送液に対し発生する汚泥量（MLSS：30,000mg/ℓ 換算）  
 24日 × 12m<sup>3</sup>/日 ≒ 288m<sup>3</sup>

⑥ 冬季→夏季に向けての汚泥処理量（20m<sup>3</sup>/日換算）  
 200m<sup>3</sup> + 288m<sup>3</sup> = 488m<sup>3</sup>/24日間



※.2 MLSS（Mixed Liquor Suspended Solids）  
 活性汚泥法のばつ気槽内混合液中の浮遊物質。  
 し尿処理では通常、活性汚泥中の有機物分解に関与する微生物量をMLSSで表す。